

道が120億円要望

15年度漁港整備予算に

道は2015年度、漁港整備に約120億円を要望している。うち防波堤や係留施設などを補修する水産物供給基盤機能保全に約40億円を盛り込んだ。26日の第3回定例道議会予算特別委員会第2分科会で毎田浩氏(民主党・道庁連合)の質問に水産林務部の郷藤則漁港漁村課長が答えた。

水産物供給基盤機能保全は、国が08年度に創設。漁港ごとに機能保全計画を策定し、計画に基づき

補修を施す。

道が整備する第1・2種漁港は244漁港あり、14年度までに97港で保全計画の策定を終える見通しだ。15年度は稚内市の宗谷漁港と浜頓別町の斜内漁港など6港、16年度は雄武町の雄武漁港や北見市の栄浦漁港など33港をそれぞれ予定。16年度末までに計画策定率は約8割に達する見込みだ。

道の漁港整備の15年度予算は、水産物供給基盤

機能保全と機能保全計画策定予定の62漁港を含む143漁港に約45億円を要望。防波堤の延伸やかさ上げなど港内の静穏度対策などを施す漁港施設機能強化で増毛町の別知漁港など7漁港に約20億円を積み上げている。

また、屋根付き岸壁などの衛生管理対策や耐震岸壁などの防災対策対策も要望している。